

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権の都合上、掲載することができません。

著作権の都合上、掲載することができません。

問1 線部 a s e のカタカナを漢字に直しなさい。

著作権の都合上、
掲載することができ
ません。

(辻村深月「さくく日和和」より)

問2 線部 A・B のここでの意味として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A 身を乗り出して

- ア 反抗的はんこうに体を相手からそむけて
- イ 意図的いどうに体を相手の方に向けて
- ウ 感情的かんじに体を前につきだして
- エ 本能的ほんのうに体を相手に近づけて
- オ 積極的に体を前にかたむけて

B 平然と

- ア 緊張きんちやうをかくしながら
- イ 普段ふだんと同じ様子で
- ウ 心をこめて丁寧ていねいに
- エ 心配した顔つきで
- オ 明るくふるまう

著作権の都合上、掲載することができません。

問3 ——線部①「たまらなくなって聞く」とありますが、この時の美樹の気持ちを六十字以内で説明しなさい(句読点も一字に数えます)。

問4 ——線部②「お母さんの口元が緩んだ」とありますが、この時のお母さんに関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 美樹が知るといやかな気持ちになるお店の思惑おもくについて話をしたのに、意外にも美樹は傷ついていないようなので安心し、そのまま説明を続けようとしている。
 イ 美樹には理解しづらいお店側の考えについて話したところ、美樹がうまくのみ込こめていなかったことがはがゆく、もっと具体的に説明しようとしている。

ウ 美樹が知りたいと思っっているお店の裏話をしてあげたのに、美樹が的外れな理解をしていることに幼さを感じ、今度は言葉を考えながら説明しようとしている。

エ 美樹には少し難しいお店の事情を話して聞かせたところ、美樹が無邪気むじやきな返答をしたことがかわいらしく、もう一度わかりやすく説明しようとしている。

オ 美樹には思いつきもしないお店の作戦について話したところ、美樹が緊張きんちやうした表情になったので、慌あわててすぐに穏おだやかな口調で説明し直そうとしている。

問5 ——線部③「足が地面を踏んでる感触がほとんどない」とありますが、それはなぜですか。八十字以内で説明しなさい(句読点も一字に数えます)。

問6 ——線部④「美樹、そんなくしゃみだっけ」とありますが、ここでのお母さんに関する説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア お母さんは美樹が落ち込んでいる理由がよくわからなかったが、美樹がたくしゃみをきっかけに、暗い様子の美樹を笑わせて元気づけようとしている。

イ お母さんは美樹が落ち込んでいる理由を自分の過去と結びつけて考え、くしゃみを話題にすることで、この機会に美樹との絆きずなを一層深めようとしている。

ウ お母さんは美樹が落ち込んでいることをつらく思い、美樹がたくしゃみを話題にすることで、強引にでも美樹のかわいらしさを伝えてはげまそうとしている。

エ お母さんは美樹が落ち込んでいる理由を察しているので、くしゃみを話題にすることで、美樹が自分に自信がもてるようそれとなく思いを伝えようとしている。

オ お母さんは美樹が落ち込んでいることを放ほうっておけなくて、美樹がたくしゃみをきっかけに、自分がこれまでに成功せいこうした恋の必勝法を教えようとしている。

問7 この文章の内容や表現の説明として、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「襖を閉める」(4行目)という動作から、まずはお父さんには内緒ないしょで美樹に事情をゆっくりと聞こうと思っっているお母さんの気持ちを読み取ることができる。

イ 「机の隅にずっと飾ってた」(8行目)という動作から、『ひらかわ』のお兄さんのことが好きだけどいつ会えなくなるか不安に思っっている美樹の気持ちを読み取ることができる。

ウ 「こくと頷く」(54行目)という動作から、『ひらかわ』に行ってはいけないというお母さんとの約束をようやく受け入れ納得している美樹の気持ちを読み取ることができる。

エ 「軽い声を出す」(79行目)という動作から、人気のあるたい焼き屋で働く忙いそかしさをオガワさんには知られたくないと思っっているお兄さんの気持ちを読み取ることができる。

オ 「尻尾の先だけちぎって、猫に向かって投げる」(113行目)という動作から、『ひらかわ』のお兄さんのことが諦あきらめきれずやけになっっている美樹の気持ちを読み取ることができる。

二、次の文章は、筆者が二〇一五年におこなった講演の内容を文章に書き起こしたものです。これを読んで、後の問いに答えなさい(設問の都合上、省略した部分があります)。

「私と小鳥と鈴と」という *1金子みすゞの有名な詩があつて、そのなかに「みんなちがつて、みんないい」という言葉があります。ここ数十年、教育の現場ではしょっちゅう出てくる言葉だと思つたので、知らない方はいいかと思つたので、けれど、

みんなちがつて、みんないい、つてほんと？ ほんと？
みんなちがつて、みんないい、つてほんとにそう思つてる？

みんなちがつていたら、不安ではない？ みんなおなじで、みんなあんしん、つてというのが、今の日本の空気なんじゃないかと思つた。なのに、いまだにこの言葉が生き残つているのは、やはり、この言葉が、①真実の一面をついているからだと思つた。ほんとは、これはだれでも言える言葉ではない。うんと歳をとつて、世界のすべてを愛しく思い、しみじみ *2感慨に耽つたときに出てくる祝福の言葉です。例えば祖父母が様ざまなタイプの元気な孫たちに目を細めて、かける言葉だと思つたのです。 *3リアルタイムで社会を駆け抜けようとしているときにこういう aシザを持つてこられると、②そこですべてが判断停止になつてしまふ。だから「みんなちがつて、みんないい」と言われたときに感じる、受容された感覚、社会的な *4肯定感、大切に自分のなかに保ちつつ、それはそれ、これはこれで現実に対処しなければならぬ。この言葉がいまだにあちこちで引き合いに出されるのは、「群れの長老に優しく微笑まれ、受け入れてもらえた」ような、温もりがあるからだと思つた。

「みんな同じになるべき」という同調圧力や「優秀なほど偉い」という能力主義があまりにも強烈に現場を縛り始めたときに初めて、「みんなちがつて、みんないい」という一言が発せられることで、緊張感を *5緩和する力を持つてのです。

怖いのは、「みんな同じであるべき」「優秀なほど偉い」という考え方が当たり前のように場を支配しているのに、指導者が「みんなちがつて、みんないい」とその言葉のほんとうの意味も考えず、さして慈愛の気持ちも持たずに、型どおりにそれを繰り返していることです。そうすると、言葉が空疎になり、なんの力も持たなくなります。そんな言葉の *6形骸化が起きると、その言葉自体が *7陳腐なものになってしまうのです。空洞化し、無力になる。

言葉の力とはなんでしょう。

例えば *8SNSなどを使いこなすみなさんなら、だれかから書き込まれた一言で、死にたくなつたり、嬉しくて飛び上がりたくなるほどの力をもらつたり、ということを経験されていると思つた。それを書き込んだ本人は、軽い気持ちで書いたかもしれないのに、受け取つたほうは、心の真芯で捉えてしまふ。

bタイコの昔から、日本では言葉には言霊ことたまという、霊的な力があると信じられていました。言霊は、言葉のなかに満ちていて、呪術的な言葉を cムゾウサに発してしまふと、それが現実のものになるとさえ思われていたのです。言葉も、じつは品詞によって力の發揮具合が違います。大きな力を發揮するのはやはり動きを表す言葉ですね。「頑張れ」「愛してるよ」「走れ」など。反対の言葉も想像できるでしょう。「しね」とか言われればこたえますね。動きを表す言葉は、気をつけなければならぬけれど、使い方はシンプルです。

けれど形容する言葉は、じつに使い方が難しいです。大きな容量のある言葉を大した覚悟もないときに使つと、マイナスの威力を發揮します。「今までに例のない」「いまだかつてない」「不退転の(決意で)」などなど、実際はそれほどのこともないのに大袈裟な言葉を使うと、実態との間に隙間ができるのです。そこにヒューヒュー風が吹き荒んで、虚しさを掻き立てる。言葉が、 *9張子の虎のように内実のないものになってしまう。だから、効果がないばかりか、じつに逆効果なのです。マイナスです。言つてみれば、言霊を殺しているような状況です。こういう言葉遣いをするのは現代の政治家に多い。インパクトの強い言葉で聴衆の気を惹きつけたいといけないという気持ちが強すぎるのでしょう。その結果、ほとんど真実でないことまで繰り出してくる dハメになつてきた。私は、今の政権の大きな罪の一つは、こうやつて、日本語の言霊の力を繰り返し繰り返し削いできたことだと思つています。それが知らないうちに、国全体の「大地の力のようなもの」まで削いできた。母語の力が急速に失われてきた。この「大地の力のようなもの」こそ、ほんとうのその国固有の「底力」だと思つたのです。

③同じメカニズムで、国の底力を奪つてきたものに、ことさらに大袈裟な「日本すごい」連呼シリーズがあると思つた。以前はなかつた現象ですが、あるときから急に目立つようになりまし。この大袈裟な言葉も、言葉の価値を虚しくさせます。

そんなこと、わざわざ言われなくても日本という国に誇りが持った時代があつたのです。外国へ行つてその治安の悪さや大都市のあちこちにゴミ屑が散らばつて慣れ、日本へ帰つてくると、なんてきれいなんだろう、夜も安心して歩けるつて、なんてほつとするんだろう、と、嬉しくなつたものです。国にプライドを持つ、というのはそういう小さなことが積み重なつて、自分の背景の一部をなしていくようなもので、でもことさら声高に言うものでもない。だつて、はしたないじゃないですか、自分の家族自慢ばかりしているようなもので。自分という *10アイデンティティの一部、家族のようなものだから、だめなところも目につく。ついグチも言いたくなる。でも心のなかではこの国に生まれてよかつた、と思つている。愛国心、つてそういう「X」なものだと思つたのです。

なんだかんだ言つてもオリンピック中継を見れば、無意識に日本を応援しているし、勝つたら嬉しい。でも、そこで *11陶然として

「だから日本は素晴らしい！」と叫んで回るのは変。その人の脳内で、選手は素晴らしい、選手は日本人である。自分も日本人である。だから自分は素晴らしい、と変換されていっているのが目に見えるようです。ちよっとおかしいでしょうか？ 素晴らしいのはそこまで努力した選手本人です。その選手を称え、同じ日本人として誇らしい、というならまだわかりませんが。何かあるたびに、「日本はすごい」と無理な Y で叫ばれるのは、大袈裟な形容詞で心が虚しくなるのと同じマイナスの効果があります。言ってる本人たちは国力を増すくらいのもりでしようが、それはかえって健やかな国力をねじ曲げ、国のほんとうの底力を低下させてしまうのです。張子の虎を大きくするだけ。

日本の美しさ、素晴らしいは、日本語の美しさ、素晴らしいに負うところが大きい。どうか、一つひとつの言葉を蔑ろにせず、大切にしてください。

蔑ろにするというのは、例えば、知り合い程度でしかない相手に「シンユウ」と連発して呼んでみたり、ちよっと腹を立てたくらいで「シネ」と言い放ったりするようなことです。「バカやろう」で済むことではない？「おたんこなす」っていうのもありますね。使ったことないけど。あれ、どういう意味なのでしょうね。……ともかく悪口のバリエーションもいっぱいあるはず。昔友人が何かに憤慨して、七回生まれ変わったって、許さない、って言うのを聞いたこともありました。それって、eカゲキに聞こえるけど、八回目には許すかもしれないのね。

自分の気持ちにふさわしい言葉を、丁寧に選ぶという作業は、地味でパツとしないことですが、それを続けることによってしか、もう、④私たちの母語の大地を再び豊かにする道はないように思うのです。

(梨木香歩『ほんとうのリーダーのみつけかた』より)

- * 1 金子みすゞ：山口県に生まれ、大正期に活動した童謡詩人。
- * 2 感慨に耽った：心が深く感じ入ってその思いにひたること。
- * 3 リアルタイム：現在進行している時間の中で、ということ。
- * 4 肯定感：価値があると認められている感覚。
- * 5 緩和：ゆるめたり、やわらげたりすること。
- * 6 形骸化：中身の無い、形だけのものになること。
- * 7 陳腐：ありふれていてつまらないこと。
- * 8 SNS：インターネット上で人々が共通の話題や趣味を通じて交流できる仕組みのこと。
- * 9 張子の虎：木型に紙を張り重ね、糊が乾いてから木型を抜いて作る虎の細工物。「見かけは強そうだが実は弱い人」のたとえとしても使われる。
- * 10 アイデンティティ：自分が自分であるという確信。
- * 11 陶然として：うっとりとして気持ちがよい様子。
- * 12 憤慨：ひどく腹を立てること。

問1 —— 線部 a s e のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 —— 線部①「真実の一面をついている」とありますが、「真実の一面」とはどういうことですか。解答欄に示された言葉に続けて、六十字以内で説明しなさい(句読点も一字に数えます)。

今の日本には、「みんなおなじで、みんなあんしん」という空気があるが、

六十字以内

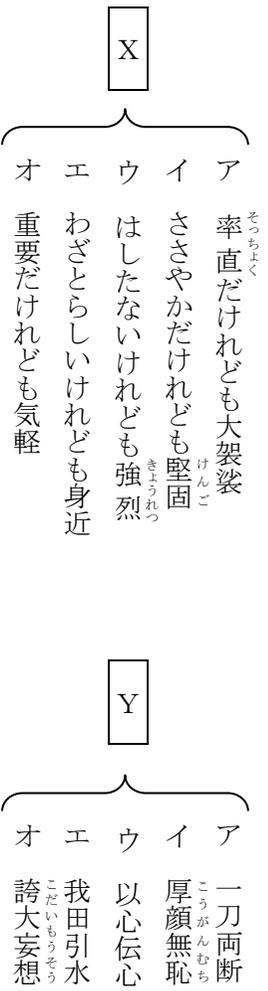
問3 —— 線部②「そこですべてが判断停止になってしまおう」とありますが、これはどういう状態のことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア それぞれが自分の考えに従って勝手に行動し始めることで、人々の一体感が失われ社会が停滞してしまう状態。
- イ 「社会的な肯定感」にしっかりと包まれることで、自分が今の状態であることに完全に満足してしまう状態。
- ウ 多様な価値観を認めることによって、自分が社会の中でどのように動くべきなのか見えなくなってしまう状態。
- エ ゆったりとした生活リズムに慣れきってしまい、現代社会のほげしい変化についていけず立ち往生してしまう状態。
- オ 社会の中で価値があるものとならないものとの区別があいまいになり、物事を筋道立てて考えられなくなってしまう状態。

問4 —線部③「同じメカニズムで、国の底力を奪ってきた」とありますが、それはどのようなメカニズム(仕組み)のことですか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 一つの言葉を何回も使ううちに、その言葉が持つ意味がだんだんと変わっていつてしまうような仕組み。
- イ 大袈裟で力のこもった話し方することによって、自分を実力以上によく見せようとするような仕組み。
- ウ 「みんなちがって、みんないい」という言葉を強調することで、国民全体の団結を弱めてしまうような仕組み。
- エ 真実でないことを力強く主張することで、いつの間にかそれが真実のように受け取られてしまうような仕組み。
- オ 現実とはつり合いの取れない大層な言い方することによって、言葉に備わる力を損なわせるような仕組み。

問5 X ・ Y に当てはまる言葉として、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。



問6 —線部④「私たちの母語の大地を再び豊かにする道はないように思うのです」とありますが、「私たちの母語の大地」が「豊か」であるというのは、どのような状態をいいますか。百字以内で説明しなさい(句読点も一字に数えます)。

三、次の各文の に適当な漢字一字を入れて慣用句を完成させなさい。

- 1 先生は生徒ひとりひとりに目を する必要があります。
- 2 私にとっては聞きたくない話ばかりで耳が い。
- 3 あなたが手伝ってくれると、午後から私の手が く。
- 4 けんかの後は気まずくて、二人とも口が い。
- 5 この件は、お互いたががうそをつかず腹を ることで解決するだろう。